

鹿児島の地質29 **かごしま化石発見伝⑤**～**生痕化石** 担当 鈴木 敏之

生物の活動の跡が岩石に残されているものを生痕化石せいこんといいます。生痕化石には、生物の巣穴の跡、這い回った跡、足跡あしあと、糞の跡など様々なものがあります。

生物本体の化石に比べると地味で、面白みもないように思われがちですが、形からではわからなかった器官のつくりや役割が生痕化石から明らかになる場合もあります。

屋久島町宮之浦の北西部海岸には、直径1mを超えるこうもり傘のようにみえる構造の生痕化石が見られます。平成15(2003)年に屋久島町在住の中川正二郎氏によって発見さ



屋久島町宮之浦北西部海岸の堆積岩

れました。化石が含まれる地層は、日向層群ひゅうが(熊毛層群)に属する砂岩と泥岩からなる互層で、約四千万年前の深海底に堆積したといわれています。この化石は、大学の専門家が確認したところ、深海底に生息するユムシ類の摂食や排泄はいせつに関係した「ズーフィコス化石」とよばれる生痕化石であることがわかりました。この化石の発見によって、当時の深海底に生物が生息していたことが証明されたこととなります。平成19(2007)年には、屋久島町の天然記念物に指定されています。

ズーフィコス化石(生痕化石)
(屋久島町指定天然記念物)

鹿児島の植物48

与論島の植物

植物担当 大屋 哲

与論島は、鹿児島県の最南端にあり、隆起珊瑚礁にかこまれた島です。3月に、島内を調査する機会がありましたので、その際見られた植物を紹介します。

トゲカズラ オシロイバナ科

与論島が北限とされるつる状の植物です。茎に「とげ」があるためこの名前がついたと言われます。島内の石灰岩の崖に生えていました。



トゲカズラ

ハマボウフウ セリ科

日本各地の海岸の砂地に生える植物です。

若葉を食用にする地域もあり、以前は中国原産の薬用植物であるボウフウの代わりに風邪の薬にしたそうです。他の地域では、6月頃に花を咲かせますが、与論島では、この時期に花が咲いていました。



ハマボウフウ

その他、隆起珊瑚礁の岩上では、ウコンイソマツやモンパノキ、クサスギカズラやハギカズラなどが、また、砂浜にはハマアカザやハマガラシ、ハマボッスやハマタイゲキなどが生えており、海岸性の特徴的な植物も多く確認することができました。今後も継続して調査を行っていきます。